

登録コード	L2910207		開講年度	2026			
担当教員	護山 真也 他			副担当	篠原 成彦		
授業科目	人文科学通論 （L7）【EA】						
英文授業名	Introduction to the Humanities						
授業タイトル	An Introduction to Humanities II						
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	月曜・2時限
講義室	人文第4講義室		遠隔授業科目	該当	読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力				人文諸学で扱われるテーマを追求することで、これまでの常識を見直し、学術的に裏付けられた思索を展開する力を養う。		
	【2022年度以前加付対象】変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力				書評の作成を通して、現代社会の様々な問題を視野に入れた多様な価値判断ができるようになる。		
	【2022年度以前加付対象】異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力				分野横断的な事柄を理解し、そこから新たな問題を発見・解決する能力を養う。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門の学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】				人文諸学で扱われるテーマに関する書評の作成や対話を通して、常識を見直し学術的に裏付けられた思索を展開する力、分野横断的な事柄を理解し新たな問題を発見・解決する力を養い、現代社会の様々な問題を視野に入れた多様な価値判断ができるようになる。		
授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	この講義は、人文学部における学修の「導入科目」であり、広く人文学部の各専門の内容を横断・批評しながら、人文科学における創造性、課題解決能力、そして言語やテキストを通したコミュニケーション能力を養う。多様な知的背景をもとに遂行される「生きた人文学」の実践にふれ、それを分析・批評することを通じて、受講生には、「多角的な人文知のあり方」を通覧的に理解するための視点を獲得すると共に、「人文学を学ぶこと」の喜びや感動を体験し、自身の興味や関心を広げ深めるためのきっかけとしてもらいたい。 講義では、最初に人文知のあり方についての講義を行った後、人文学研究の基礎となる文献講読と分析の基礎を学ぶために、人文学部の各専門分野から提示された課題図書リストから図書に対する書評作成とディスカッションの技法を習得する。具体的には、毎月1本のペースで書評の作成が課題として提示される。課題達成のために、参加者は、自らが選んだ課題図書を深く読み込み、分析的・批判的な書評を作成し、e-ALPSに期日までに投稿しなければならない。また、第二回書評からは、同じクラスの他の書評に対するコメントを付すことも課題に追加される。また、グループディスカッションを通して、クラスを越えて、同じテーマを共有する者同士で意見交換を行い、相互理解を深める。 さらに、最終の第三回書評からは、代表者によるプレゼンテーション大会も行われる。						
授業計画	【授業の概要】で述べられている内容にしたがって、以下のように進行する。 第01回 一斉授業：多角的な人文知のあり方（学部長講義） 第02回 一斉授業：本授業のオリエンテーション、課題設定 第03回 第1回書評対象図書の選定と読み込み 第04回 第1回書評作成・提出 第05回 一斉授業：批判的読書の方法と書評の作成 第06回 第2回書評対象図書の読み込みと内容理解 第07回 第2回書評作成・提出 第08回 第2回書評に対するコメントの作成・コメントへの応答 第09回 一斉授業：コメントの作成・応答を通じたディスカッションの方法 第10回 一斉授業：書評対象図書に関するグループディスカッション 第11回 第3回書評対象図書の読み込みと内容理解 第12回 第3回書評作成・提出 第13回 第3回書評に対するコメントの作成・コメントへの応答 第14回 一斉授業：書評対象図書に関するグループディスカッション 第15回 一斉授業：プレゼンテーション大会、授業アンケート						
成績評価の方法	【授業の概要】に記載した「生きた人文学」の実践にふれ、分析・批評する作業を通じて、多角的な人文知のあり方を通覧的に理解するための視点や、創造性、課題解決能力、コミュニケーション能力が涵養されたかどうかを、新入生ゼミナール担任が、提出された書評3本と、毎月の書評締め切りから1週間以内に他の受講生の提出した書評に付されたコメントをもとに評価する。						
成績評価の基準	課題図書について (i)適切なまとめをしたうえで建設的・批判的かつ説得的・分析的な論点が記述できていれば「卓越している」 (ii)適切なまとめと説得的な論点が記述できていれば「かなり上にある」 (iii)整合的なまとめと十分に妥当な論点が記述できていれば「やや上にある」						

成績評価の基準	(iv)瑕疵のないまとめと妥当性の認められる論点が記述されていれば「水準にある」と評価する。
事前事後学習の内容	自らが取り上げた書籍のみならず、関連する書籍についても読み込みながら書評を作成する必要がある。
履修上の注意	・人文学部でのあらゆる教育の基礎を形成する授業であり、人文学部の必修科目である。 ・各授業では、e-Alpsを利用して課題となる書評・コメントのアップロードを行う。 ・書評の作成にあたっては、人文科学通論Iおよび新入生ゼミナールで養われた手法を十全に活用して取り組むことが求められる。 ・書評作成において、たとえ部分的でも剽窃・盗作が認められた場合には、無条件で「不可」となる。 ・生成AIの使用について 本授業では生成系AI（ChatGPT等）の利用を禁止しない。ただし、「思考の代行」としてではなく、「学習補助」としての利用に限定する。具体的には、文章の推敲、文献・事例の探索等に用いるにとどめ、自分の主張の核（問い、立場、論証）は必ず自分の頭をつかって構築すること。また、AIが提示した参考文献や知見には誤りが含まれる可能性がある。したがって、レポート等で論拠として挙げる文献については、AIの要約や二次情報のみに依拠せず、必ず原典（一次資料）を自分で入手して通読し、内容を理解した資料のみ引用・参照を認める。その上で、生成系AIを利用した場合は、利用箇所・用途を明記すること。以上（主張の中核を自ら構築すること、原典確認、利用箇所・用途の明記等）を満たさないまま提出したことが確認された場合、減点の対象、または不正行為として取り扱う場合がある。
質問、相談への対応	授業の進行に関わることは、e-Alps上の掲示板にて受け付けます 個々の書評の作成については、各担当教員が受け付けます。
教科書	使用しない
参考書	その都度、別途支持する